
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「共同利用・共同研究課題「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」（2020年度第1回研究会）

2020年5月31日(日曜日)午後13時より午後17時、オンライン開催

本共同研究課題の第1回目となる研究会では、まず、代表者である海老原から、「本共同利用・共同研究課題について」と題し、プロジェクトの概要と3年間のスケジュール、および、新型コロナウイルス蔓延によるスケジュールの変更について説明を行った。言語学者以外がフィールドワークする際の言語記述の方法、文献研究者ができる貢献などについて質問が出た。

次に、星泉氏（AA 研所員）から「『チベット牧畜文化辞典』紹介：ヒマラヤ・チベット地域における牧畜語彙調査票構築の観点から」と題する発表が行われた。昨年度刊行された『チベット牧畜文化辞典（チベット語・日本語）』を用いた調査票の作成の事例が紹介された。

3つ目は、平田昌弘氏（AA 研共同研究員，帯広畜産大学）による、「第3期チベット牧畜研究に向けて課題と宿題」および「乳文化（乳加工体系）の体系的理解のための調査票」という発表である。乳文化の視点から、体系把握の重要性が例示され、平田氏が乳加工について現地調査するための調査票が具体例として紹介された。

最後に参加者全員から5分ずつの自己紹介および、本課題にできる貢献について語ってもらった。次回は、各自がそれぞれの専門分野に関する調査票の素案を作成することが提案された。

本課題の第一回研究会がオンライン開催となることを受けて、代表者がオンライン研究会についてのワークショップを開催し、Zoom 未経験者のために接続テストの日を設けるなど事前の準備を入念に行った。Google docs 上の議事録の併用、進行、ファシリテーター、議事録担当の分担、ブレイクアウト・ルームの活用、チャットの活用など、オンラインの特性を生かした研究会となるよう工夫した。参加者、および、ホストのネット接続が切れるなどは時々あったが、共同ホストとしていたため、大きなトラブルなく終えることができた。また、質疑やディスカッションも活発に行われ、建設的で活発な議論ができた研究会となった。